



JCRファーマ株式会社

2026年3月期 第1四半期決算発表 カンファレンスコール

2025年7月30日

イベント概要

[企業名]	J C R ファーマ株式会社
[企業 ID]	4552
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2026 年 3 月期 第 1 四半期決算発表 カンファレンスコール
[決算期]	2026 年 3 月期 第 1 四半期
[日程]	2025 年 7 月 30 日
[ページ数]	27
[時間]	17:30 – 18:29 (合計：59 分、登壇：21 分、質疑応答：38 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	4 名 上席執行役員 経営戦略担当 経営戦略本部長 伊藤 洋 (以下、伊藤) 上席執行役員 開発本部長

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



JCR Europe B.V. General Manager, JCR USA Inc. General Manager

アン・ベシェ (以下、ベシェ)

経営戦略本部 経営戦略部長

川田 直紀 (以下、川田)

経営戦略本部 経理部長

太田 義博 (以下、太田)

[アナリスト名]*

(敬称略)

シティグループ証券

山口 秀丸

大和証券

橋口 和明

モルガン・スタンレーMUFG証券

村岡 真一郎

UBS証券

酒井 文義

ジェフリーズ証券

山木田 雅

野村證券

前田 晃太

SBI証券

川村 龍太

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

司会：ただ今より、JCRファーマ株式会社、2026年3月期第1四半期決算発表、カンファレンスコールを開催いたします。

本日のプレゼンテーションおよび質疑応答は、後日、弊社公式ホームページにてスクリプト配信いたします。

説明会の開始前に、ご視聴の皆様にお断り申し上げます。本日の説明におきまして、現時点の予想に基づく将来の見通しを述べる場合がありますが、それらは全て、リスクならびに不確実性を伴っていることを、あらかじめご了承ください。

また、本日の説明、および使用する資料は、株主・投資家や報道関係者の皆様への、当社事業の情報提供を目的としたものです。開発品および医薬品に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイス等を目的とするものではありません。

それでは、本日の出席者をご紹介します。上席執行役員経営戦略本部長、伊藤洋。

伊藤：よろしくお願いいたします。

司会：上席執行役員開発本部長、アン・ベシェ。

ベシェ：よろしくお願いいたします。

司会：経営戦略本部経営戦略部長、川田直紀。

川田：よろしくお願いいたします。

司会：最後に、経営戦略本部経理部長、太田義博。

太田：よろしくお願いいたします。

司会：以上、4名でございます。続きまして、本日使用する資料についてご説明いたします。本資料は弊社ホームページに、本日16時に掲載いたしました。お手元に資料が必要な方は、恐れ入りますが、そちらをご参照ください。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



次に、本日の説明会の流れについてご案内いたします。本日は、プレゼンテーションおよび質疑応答を含めた、約1時間を予定しております。ご質問は、プレゼンテーションが全て終了した後、まとめてお受けいたします。質疑応答のお時間は、約40分を予定しております。

それでは、伊藤より2026年3月期第1四半期連結業績について、次にアン・ベシェより、開発品目の進捗について、ご説明します。よろしくお願いいたします。

連結決算概要



連結	(単位:百万円)				
	2025年3月期	2026年3月期			
	Q1累計	Q1累計	前年同期比		年間進捗率
			増減額	増減率	
売上高	8,145	8,569	+424	+5.2%	22.7%
売上原価	2,073	2,357	+284	+13.7%	28.8%
売上総利益	6,072	6,212	+139	+2.3%	21.0%
販売費及び一般管理費	6,368	6,818	+449	+7.1%	25.3%
販売・一般管理費	3,192	3,469	+277	+8.7%	28.9%
研究開発費	3,175	3,348	+172	+5.4%	22.3%
営業利益	△296	△606	△309	-	-
営業外収益	505	74	△430	△85.2%	-
営業外費用	466	218	△247	△53.2%	-
経常利益	△257	△749	△492	-	-
特別利益	627	-	△627	△100.0%	-
特別損失	0	1	+1	+946.1%	-
税引前純利益	369	△751	△1,120	-	-
法人税等	168	△205	△373	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	201	△546	△747	-	-
(ご参考) 共同開発先による負担控除前の研究開発費	3,462	3,518	+56	+1.6%	20.6%

連結決算概要に関する補足説明

- 売上高は前年同期比で5.2%増加しました
- 売上原価率(契約金除く)は工場の稼働率が前年同期に比べて低下したことにより上昇しました
- 販売・一般管理費の増加は、営業活動における共同販促先への手数料の増加等によるものです
- 研究開発費の増加は主に海外の臨床開発の進展によるものです
- 営業外収益の減少は主に為替差益の減少によるもの、営業外費用の減少は持分法投資損失等の減少によるものです

対売上高	2025年3月期 Q1累計	2026年3月期 Q1累計	増減
売上原価率	25.5%	27.5%	+2.0%
売上原価率 (契約金除く)	25.5%	27.9%	+2.4%
研究開発費率	39.0%	39.1%	+0.1%
営業利益率	△3.6%	△7.1%	△3.5%

3

伊藤：それでは私、伊藤より、第1四半期の連結業績についてご説明いたします。

最初のページをご覧ください。

まず、売上高、85億6,900万円で、前年同期に比べましてプラスの4億2,400万円でございます。中段、営業利益、マイナスの6億600万円、前年同期比マイナスの3億900万円。一番下の行、当期純利益、マイナスの5億4,600万円、前年同期比マイナスの7億4,700万円で、増収ではありますが、減益の決算でございました。

この内訳に入ります前に、まず売上高の中身についてご説明したいと思います。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



売上高内訳（連結）

(単位：百万円)

連結	2025年3月期	2026年3月期			
	Q1累計	Q1累計	前年同期比		年間進捗率
			増減額	増減率	
グロウジェクト®	4,649	4,495	△154	△3.3%	25.3%
イズカーゴ®※	1,372	1,562	+190	+13.9%	24.4%
テムセル®HS注	730	845	+115	+15.8%	31.3%
腎性貧血治療薬	907	897	△10	△1.2%	28.9%
エボエチンアルファ BS注「JCR」	515	122	△393	△76.3%	15.3%
ダルベオエチンアルファ BS注「JCR」	392	775	+382	+97.6%	33.7%
アガルシダーゼ ベータ BS点滴静注「JCR」	277	426	+149	+53.8%	38.7%
医薬品合計	7,936	8,226	+289	+3.6%	26.5%
契約金収入	15	106	+91	+582.2%	1.9%
その他※	193	236	+43	+22.4%	-
売上高合計	8,145	8,569	+424	+5.2%	22.7%

※イズカーゴの売上高のうちNPSプログラムによるものは「その他」に含む

売上高内訳に関する補足説明

- グロウジェクト®、イズカーゴ®、テムセル®HS注はいずれも当社予算を上回り堅調に推移しています
- グロウジェクト®は、薬価改定の影響で前年同期比3.3%減となりましたが、販売数量は前年同期を上回りました
- 腎性貧血治療薬は、販売先であるキッセイ薬品工業株式会社への供給計画に準じた売上高となりました
- アガルシダーゼ ベータBS点滴静注「JCR」については、販売先である住友ファーマ株式会社への供給計画に準じた売上高となりました
- 契約金収入は既存の契約のマイルストーンによるものです
- その他の増加はNPSプログラムの売上増によるものです

4

次のページをご覧ください。

まず上から三つ、グロウジェクト、イズカーゴ、テムセルにつきましては、いずれも当社の予算を上回りまして、堅調な推移でございます。

一番上のグロウジェクトですが、売上高 44 億 9,500 万円ございまして、前年同期比 1 億 5,400 万円のマイナス、率にしまして 3.3%のマイナスとなっております。ただ、これは薬価改定が 3.6% ございましたので、その影響によりまして減でございます、販売数量は前年同期を上回っております。また対予算でも、先ほど申し上げましたように堅調な推移を示しております。

Appendix の 13 ページを、後でご確認いただければと思いますけれども、こちらではシェアが低下していることを示しております。

これは、ウィークリーの製剤の売上割合が、徐々にではありますが伸びておりまして、それとの薬価の違いによりまして。このシェアは、金額ベースのシェアでございますので、そういった意味でのシェアの低下を、お示ししているということでございます。

一方、数量ベースでは、先ほど申し上げましたように、前年同期に比べまして増加しているということでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2 番目のイズカーゴでございますが、こちらは 15 億 6,200 万円の売上、前年同期比でプラスの 13.9%という伸びを示しております。こちらも Appendix にお示ししておりますけれども、ネットで 5 例の症例増がございました。

次にテムセルでございますが、売上は 8 億 4,500 万円、率にしまして 15.8%の増加でございます。こちらも予算を上回った、堅調な推移でございます。

その下のエポエチンアルファ、ダルベポエチンアルファは、いずれもキッセイ薬品工業に販売を委託しているものでございますが、キッセイ薬品工業との供給計画に準じた売上高でございます。腎性貧血治療薬全体では、前年同期に比べまして若干の減、1,000 万円の減でございます。

次にアガルシダーゼベータですけれども、こちらは 4 億 2,600 万円、プラス 1 億 4,900 万円でございます。こちらは住友ファーマに販売をお願いしており、住友ファーマとの間での供給計画に準じた売上ということでございます。

以上、医薬品合計の売上は 82 億 2,600 万円、対前年同期でプラスの 2 億 8,900 万円でございます。

次に契約金収入でございますが、この第 1 四半期に計上しましたのは 1 億 600 万円でございます。こちらは既存の共同研究のマイルストーン達成による受取でございます。これが 1 億 600 万円あったということでございます。

契約金収入につきましては、7 月に入りまして、アレクシオンファーマとの JUST-AAV の契約、またアキュメン・ファーマシューティカルズとの契約のリリースをしておりますが、それらの契約に関する一時金につきましては、第 2 四半期に計上されます。

また同じく、契約金収入に関しまして、前期から今期に持ち越している案件がございます。これにつきましては、以前にもお話ししたことがございますが、第 2 四半期の契約締結を想定しております。契約が締結されましたら、第 2 四半期に売上として計上できることを想定しております。

その他の部分、2 億 3,600 万円の売上、前年同期に比べて 4,300 万円のプラスでございますが、こちらはイズカーゴの、NPS プログラムの売上増によるものでございます。

結果としまして、売上高合計は 85 億 6,900 万円、前年同期に比べまして 4 億 2,400 万円のプラスで、増収でございます。

最初のページに戻っていただきまして、売上高は今、申しあげましたように 85 億 6,900 万円。売上原価は 23 億 5,700 万円で、プラスの 2 億 8,400 万円でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



右下の表を見ていただきますと、売上原価率（契約金を除く）が27.9%で、前年同期に比べまして2.4%のプラスとなっております。こちらは工場の稼働率が、前年同期に比べて低下したことにより、増加したということでございます。

その結果、売上総利益は62億1,200万円で、前年同期比でプラスの1億3,900万円でございます。

一方、販売費および一般管理費につきましては、前年同期に比べて4億4,900万円の増加で、68億1,800万円となっております。内訳としまして、販売費および一般管理費については34億6,900万円、前年比でプラスの2億7,700万円ございました。

この増加の要因としまして、共同販売先への手数料の増加がございます。こちらは当然、売上が増加した場合に増加することがございますが、それに加えまして、この第1四半期には販売マイルストーンに基づく支払がございました。これは設定されたマイルストーンが達成されたときに支払が生じるものです。

これは、今年度の予算には想定しておりました。もう少し後で達成すると想定しておりましたが、この第1四半期に前倒しで達成されたために、そのワンショットの金額が影響しまして、大きくプラスになっているということでございます。

また研究開発費につきましては、33億4,800万円で、1億7,200万円の増加です。これは主に、海外の臨床開発の進展によるものでございます。

その結果、営業利益はマイナスの6億600万円。

営業外収益は7,400万円で、前期に比べて4億3,000万円の減でございます。これは前期に計上がございました為替差益の計上が、今期はなかったということでございます。

次にその下の営業外費用ですが、2億1,800万円、前年同期に比べましてマイナスの2億4,700万円でございます。この減少の要因は、持分法投資損失の減少によるものが大きいということでございます。

その結果、経常利益はマイナスの7億4,900万円。

前期は特別利益がございましたが、今期は特別利益がございませんので、税引後の当期純利益につきましては、マイナスの5億4,600万円で、前年同期に比べてマイナスの7億4,700万円ございました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2025年7月

アレクシオン社とJUST-AAV技術に関するライセンス契約を締結



- アレクシオン社は、**最大5つまでの同社の遺伝子治療プログラム**に対してライセンスを受けたJUST-AAVカプシドを適用可能
- 最大で8億2,500万米ドルのマイルストーンフィー**
 - 研究開発マイルストーンフィー : 最大 2億2,500万米ドル
 - 販売マイルストーンフィー : 最大 6億米ドル



神経変性疾患、核酸医薬品の共同研究に続く アレクシオン社との第三のパートナーシップ

5

次のページは売上の内訳で、先ほどご説明しましたので、その次のページでございます。

こちらは7月8日にリリースしました内容でございます。アレクシオンファーマとJUST-AAV、当社のJ-Brain Cargoを応用したAAVの技術でございますが、これに関するライセンス契約を締結したということでございます。

内容につきましては、リリース申し上げたとおりでございますが、神経変性疾患治療薬、核酸医薬品の共同研究に続きまして、アレクシオンファーマとの第3のパートナーシップでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2025年7月

アキュメン社とJ-Brain Cargo®技術に関するライセンスのオプション契約を締結



- **血液脳関門通過型アルツハイマー病治療薬の開発が目的**
 - アキュメン社のAβO選択的抗体と、血液脳関門通過技術であるJ-Brain Cargo®の組み合わせ
 - J-Brain Cargo®適用の対象となるアルツハイマー病治療薬候補は最大2つ
 - 候補のひとつsabirnetugについては、アキュメン社が臨床第II相試験を進行中
- **最大で5億5,500万米ドルのマイルストーンフィー**
 - 開発マイルストーンフィー : 最大 4,000万米ドル
 - 販売マイルストーンフィー : 最大 5億1,500万米ドル

AβO: アミロイドペータオリゴマー
アルツハイマー病の発症と進行の主要な病理学的
要因である、毒性のある可溶性タンパク質

当社独自の血液脳関門通過技術を用いて
最も困難な医療課題のひとつであるアルツハイマー病に挑む

6

次のページでございます。

こちらは7月15日にリリースしました、アキュメン・ファーマシューティカルズとのJ-Brain Cargo 技術に関するライセンスのオプション契約でございまして、アルツハイマー病治療薬の開発に関する提携でございます。

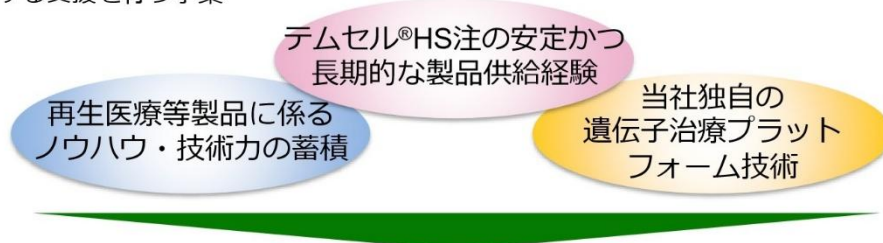
こちらは当社独自技術でございます J-Brain Cargo を使って、アルツハイマー病に挑む提携ということでございまして、非常に市場の大きなアルツハイマー病に、われわれの技術が応用される案件ということでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

再生・細胞医療・遺伝子治療製造設備支援事業費補助金 (再生CDMO補助金)

- ・ 経済産業省による事業のひとつ
- ・ 再生・細胞医療・遺伝子治療製品に関するCDMOの国内受託製造拠点の整備や製造人材育成に対する支援を行う事業



当社のみが提供しうる新たな価値を実現すべく 製造設備投資を進める

7

次、こちらは私の説明の、最後のスライドでございます。

再生 CDMO 補助金事業への採択でございまして、7月16日にリリースをしております。

こちらは経済産業省の事業の一つでございまして、再生・細胞医療・遺伝子治療製品に関する CDMO の製造拠点の整備、人材育成に対する支援を行う事業ということで、これに採択されたということでございます。

私どもはご案内のとおり、テムセルを長期にわたって安定的に製品を製造し、供給してきた経験がございます。それによりまして再生医療等製品にかかわるノウハウ・技術力を蓄積しているということでございます。

まだ試製造契約の段階ではございますが、サンバイオのアクーゴ試製造の契約をしまして、今、試製造の段階にあるということでございます。この製品につきましても、本契約となりましたら、この補助金を活用しまして、製造設備の整備を進めていくということでございます。

また先ほども、遺伝子治療の提携の話がございましたけれども、当社独自の遺伝子治療プラットフォーム技術を用いた製品を製造する場合の設備整備ということも視野に入れております。

いずれにしましても、当社のみが提供し得る、新たな価値を実現するような製造設備への、投資を進めていくということでございます。

サポート

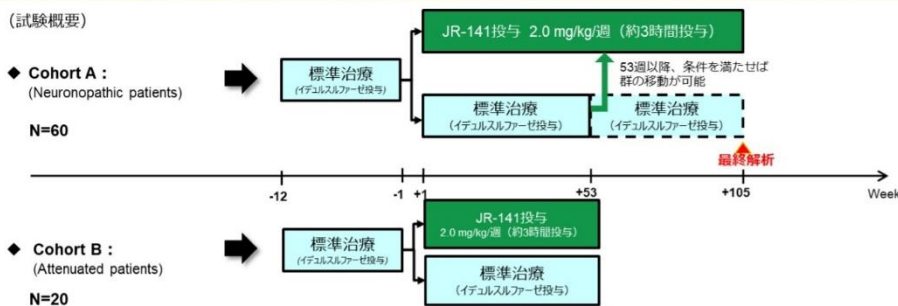
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

これは CDMO 事業の補助金でございますが、われわれは会社として CDMO を、営業メニューとして展開しているわけではございません。ただ過去に、ワクチン原液の受託製造をいたしましたけれども、そういったわれわれでこそ実現できるような製造であれば、非常に付加価値の高い事業となると考えておりますので、そういったものにつきましては、積極的に対応していきたいと考えております。

私の決算に関する説明は、以上でございます。

JR-141 (pabinafusp alfa: BBB通過型MPS II型治療薬)

グローバル臨床第III相試験 (JR-141-GS31試験) : STARLIGHT試験 概要



- 目標症例数80例の組入れを達成
- 2025年6月 FDA相談にて建設的な議論を実施
 - 承認申請に向けた議論が進行中

9

ベシエ* : 皆様、こんにちは。アン・ベシエでございます。ご参加いただきまして、ありがとうございます。われわれの開発パイプラインについて、私から発表させていただければと思います。

まず最初に、JR-141 のアセットについてご説明したいと思います。

こちら、ERT、MPS 治療のための血液脳関門通過型のものがございます。第3相の試験ですけれども、こちらは STARLIGHT 試験と呼んでおります。こちらのオーバービューについて、お話ししたいと思います。

二つのコホートに分かれております。オープンラベル (評価者盲検) です。

そして一つのコホート A、こちらは 60 人の患者さんが組み入れられています。そしてサブフェーズ、この標準治療、もしくは JR-141 に分けられております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

そしてコホート B のほうです。20 例が組み入れられています。そして平等に分けられています。標準治療と JR-141 に分けられております。

そして、大きなマイルストーンを達成しましたことを発表したいと思います。喜ばしいことに、ターゲットとしていた 80 人を達成することができました。被験者の登録数です。

また、FDA と建設的なミーティングを 6 月に行うことができました。今後も FDA との、継続的なディスカッションをもうけていきます。そして BLA 申請に向けて目指してまいりたいと思います。

FDA とのディスカッションに基づきまして、今後も申請の、バイオマーカーに基づいた計画を進めていきます。そして日本・ブラジルの試験で得られたデータ、これを全体的に見た申請計画を進めてまいりたいと思います。

開発パイプライン



開発番号	適応症	開発段階				備考
		前臨床	Phase 1	Phase 2	Phase 3	
JR-141	ムコ多糖症II型 (ハンター症候群)	Global Ph3				<ul style="list-style-type: none"> 目標症例数の組入れを達成 ~2027年度 米国・欧州・ブラジルでの承認予定
JR-142	骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症	Ph3 (日本)				<ul style="list-style-type: none"> 2024年12月 Ph3初回投与
JR-171	ムコ多糖症I型 (ハーラー症候群 等)	Global Ph1/2 completed				<ul style="list-style-type: none"> 継続試験が進行中 導出に向けて交渉中
JR-441	ムコ多糖症IIIA型 (サンフィリップ症候群A型)	Ph1/2 (ドイツ)				<ul style="list-style-type: none"> <Ph1/2> 目標症例数の登録完了 2025年度 下半期 データ (1年) の解析完了 <Ph1> 目標症例数の登録完了
		Ph1 (日本)				
JR-446	ムコ多糖症IIIB型 (サンフィリップ症候群B型)	Ph1/2 (日本)				<ul style="list-style-type: none"> 2024年12月 Ph1/2初回投与 メディアバルホールディングスに導出
JR-471	フコンドーシス					<ul style="list-style-type: none"> メディアバルホールディングスに導出

10

こちら、臨床もしくは前臨床パイプライン後期の概要となります。

MPS II アセット、JR-141 の説明をさせていただきましたけれども、こちらは登録を進めています。そして今後もリクルートメントを進めてまいります。計画、タイミングに関しましては、これまでの発表どおりであります。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



12

JR-142 です。小児の成長ホルモン分泌不全症低身長を対象とした長期作用型です。こちらに関しましては、最初の投与が 2024 年の 12 月に実施されました。リクルートメントのほうも現在進行中でございます。

JR-171 です。MPS I です。こちらは既に、グローバル第 1 相・第 2 相試験を完了しました。そして、パートナーリングを強化しています。

JR-441 です。MPS IIIA のアセットでございます。こちらは大きな進捗を見ました。登録目標とした患者さんの組み入れは達成いたしました。そして最初の 1 年の臨床データ、25 年度の下期に予定しています。そして、日本の試験の患者さんの登録も完了しております。

JR-446、MPS IIIB に関してです。これは 2024 年 12 月に開始しております。これはメディパルホールディングスとのパートナーリングということで、フェーズ 1/2 に関しての最初の投与が始まっております。

メディパルホールディングスでもう一つ、JR-471、フコシドーシスに関しまして、これも同じく試験が行われております。パートナーシップが現在進行しているということです。

以上が、ポートフォリオに関する説明です。

司会：ご清聴、ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



質疑応答

司会 [M]：それでは、質疑応答を開始いたします。山口様、お願いいたします。

山口 [Q]：シティグループ証券の山口です。

一つ目、先ほど最後、アン・ベシェさんにコメントをいただいた FDA の 6 月の会合について、もう少しお伺いしたいと思います。

バイオマーカーで、かつトータルエビデンスで、かつブラジルと日本のデータで、申請ができると聞こえたんですけども、そういう理解でよいのかどうか。この STARLIGHT のデータを含めて、アメリカの患者さんのデータを必要とされているかどうか含めて、お伺いしたい。

あと、相手のいることではありますけれども、申請の時期が見通せたなら、それを教えてください。

ベシェ [A]*：今現在、完全な内容について、FDA との話し合いについては、まだこれは守秘義務がございまして、あと戦略的な理由がございまして、全てを開示するわけにはいきませんが、非常に生産的、かつ建設的な内容で、FDA との会議ができたと思います。

全般として、先のこの申請に関する道のりが見えてきたかと思います。ご指摘のとおり、現在進行中の第 3 相試験のデータおよび日本とブラジルで実施した試験から得られるすべてのデータを基に、登録に向けた今後の進め方について議論しました。さらに、非臨床に関する事項についても議論しました。FDA とまたその辺りのデータを対象にしながら、継続的に話をして、できるだけ早期に、これは申請していけるようにサポートするといわれております。

したがって今現在、われわれは今現在、既に皆さんにお伝えしているタイムラインどおりに、申請する予定でおります。

山口 [Q]：もう一つ、最初のところでお話をいただいていた、ちょっと聞き漏らしたと思うんですけども、マイルストーンの考え方です。

去年から持ち越しになった某卸のは、Q2 に多分くるだろうということだったんですけども、Q1 に関しては過去の進捗がということで。今回組んだアレクシオンとか、あとそのほかのやつ、アキュメンとか、この辺も入っていたとおっしゃいましたが、そこをもう 1 回確認させてください。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

伊藤 [A]：その点につきまして、まずこの第1四半期に計上しました1億円につきましては、過去に締結しております他社との共同研究、その共同研究の中で設定されておりますマイルストーンを達成して、いただいた収入でございます。

お話のありましたアレクシオンとの、JUST-AAVに関する契約、あるいはその後リリースしましたアキュメン、これはいずれも7月に入りまして契約を締結しておりますので、これらの契約の一時金につきましては、第2四半期の計上になります。ですから、第1四半期には入っていないということです。

山口 [Q]：卸のもQ2ですね。

伊藤 [A]：そちらの、前年度から期ずれしておりますと申し上げている案件につきましても、Q2に契約して、計上できる見込みを持っております。

司会 [M]：橋口様、お願いいたします。

橋口 [Q]：大和証券、橋口です。

一つ目が、JR-141の申請に向けた、まだ必要なことが何なのかについてです。

フェーズ3のデータも、申請には活用していくというお話をされました。これは53週分のデータを取った上で申請という理解でよろしいでしょうか。したがって従来お示しされていた、27年度までの申請というタイムラインどおりで今後、進みそうという理解でいいのかを、改めて確認させていただければと思います。

ベシェ [A]*：おっしゃるとおりでございます。第3相のデータが必要です。そしてアメリカでの申請、そしてBLAということになります。これまでお伝えしていた内容どおりとなります。そのとおりの進捗状況となります。

橋口 [Q]：2点目が、売上原価についてです。

先ほど販管費については1クォーター、多めになっていることについて、通期の計画では織り込んでいらっしゃったとおっしゃったので、進捗高めですけれども、計画線に最終的にはいくのかなと理解しました。

一方で売上原価が、進捗が高いこと。この稼働率が低下している影響は、第2四半期以降も一定程度残って、計画を超過する要因になると考えておいたほうがいいのでしょうか。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



伊藤 [A]：原価について、まだ第1四半期だけの結果ですので、これが続くかどうかは見通せないところがありますが、もともと計画している原価に対して、若干高めに推移する可能性はあるかなとは考えています。今、申し上げられるのはこの程度でございます。

司会 [M]：村岡さん、お願いいたします。

村岡 [Q]：モルガン・スタンレー、村岡です。

JR-141の件なのですが。

申請が53週の結果が出てからということは、来年の今頃結果がでて、そこから申請、発売は、資料どおりのことですが、27年ということは、Denaliが予定どおり1月に認可を取れば、Denaliに約1年以上、1年半ぐらい遅れることになるかもしれないのですが。

それはそうとして、JR-141のパートナーリングの交渉には今回の件、ネガティブに働きそうな、いやな気分になるのですが、そういうことがあり得るのか。もう一度、パートナーとのゼロからの話し合いみたいな感じになるのか。その辺り、話し合いの状況の、色を教えてくださいということになるのですが、このミーティングを踏まえた話は、どう考えればよろしいでしょうか。

伊藤 [A]：パートナーリングの交渉につきましては当然、FDAとの話し合いがある前からありまして、その中で、FDAとの話し合いがあることは、もう分かっておりましたので、それを、様子を見てからということになっておりましたのは、前にもお話ししたとおりでございます。

この結果を受けまして、それぞれまた交渉を進めているわけですが、私の感覚としては、この結果が交渉に、ネガティブに働いていることはないように感じております。むしろ、この結果を踏まえた上で、どのような条件で契約をするのかというような話し合いに、ステージが移っていると思っています。

村岡 [Q]：つまり、条件が少し割り引いて、金額的には少し少なくなるかもしれないけれども、決まる確率は上がってきている。そういうことでしょうか。

伊藤 [A]：金額が少なくなるかどうかは、それは分かりませんが、いずれにしてもこれはミーティングをしたわけですから、その結果も共有していて、それを前提に、契約の交渉を進めているということでございます。流れとしては、おっしゃっているとおりかと思えます。

村岡 [Q]：もう一つ質問です。数日前、キッセイさんが業績修正を出されていて、株を売却しますよということを、御社の社名は出ていませんでしたが、言っていた。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



仮に御社の株、これで最後の1発じゃないかという気もするのですが、出てきた場合、何か対策を打つ予定はあるのか。いや、そのまま市場で売っていただくのを、これまでどおり見ることになるのか。どう考えればよろしいでしょうか。

伊藤 [A]：われわれの株が売られるかどうかは分かりませんし、特に今、そういうことを聞いていることもございませんけれども、もしも、仮定の話としてということですが、弊社の株をお売りになるというお話があった場合には、市場でお売りになることもあるとは思いますが。

けれども、われわれとしては前回、よくご存じのとおり、株の売却によって株価に影響を与えたことがありますので、それを踏まえまして何らか、より市場の価格に影響を与えることが少ないような方法を取れるならば、そのようなことも、話し合いの中で提案していきたいなとは思っております。

司会 [M]：酒井様、お願いいたします。

酒井 [Q]：UBS 証券の酒井です。

最初のほうに戻るのですが、契約金のところでは。

アレクシオンとアキュメン、これは情報開示のときには、マイルストーンについては数字を出されていますけれども、契約金については一切、触れていません。したがって、この契約金は別枠で入ってくると思うんですけれども、これ、もう既に今期の契約金の予想の55億円、この中には含まれていて、予想は変更しない、する必要はないという理解でよろしいのか。

それとも何らかの、ここの部分、この55億円という通期の予想に、変化を与えるものなのかどうか。その辺、卸さんの分とか、それからJR-171とはおっしゃっていないかもしれないけれども、導出の進捗を含めて教えていただけますか。

伊藤 [A]：まずアレクシオン、アキュメンとの契約一時金につきましては、これはリリースしておりますように、既に業績予想に織り込み済みでございますので、これがもともと開示しております金額に、影響を与えることではないということでございます。

次に前期、契約を想定しておりましたが、今期に期ずれしている案件でございますけれども、これにつきましては、先ほどのご質問もございましたけれども、第2四半期での契約締結を想定しております。ですから、第2四半期に契約できたら、計上されることを想定しております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

それ以外のアセットの導出につきましては、これは通期の決算発表のときにも申し上げたかと思えますけれども、これは今期の契約一時金の、予算の中には入っておりませんので、そういった契約がもしできれば、上振れする要因になるかなと考えております。

いずれのアセットも、契約の交渉といいますか、興味を持ってくださる会社がございますので、それについての話し合いは依然、続けてはおります。発表できるようなことがありましたら、すぐに発表したいと思えます。

酒井 [Q]：確認です。そうすると、アレクシオンとアキュメンは、55 億円の中に入っている。それ以外のアセットについては、現時点では予算にカウントしていなかったという理解でいいんですね。

伊藤 [A]：再度、確認の上で申し上げます。アレクシオン、アキュメンについては、7月に発表した契約一時金については予算に計上して、想定しておりました。また前期から今期に期ずれしている案件につきましても、期首に発表しました契約一時金の、予算の中に含まれております。

一方で、それ以外のアセットの導出、JR-171、JR-141 というお話がございましたけれども、それらについては、期首に発表した契約一時金の予算の中には含まれてはおりません。

酒井 [Q]：すると、第2クォーターでほとんど、計上されるようなかたちになるわけですね、この通期の契約金に関しては。

伊藤 [A]：今、申し上げた三つについては、そういうことです。

それ以外にも、既存の共同研究からの、研究の進捗によって、マイルストーンが達成された場合に受け取れるものについては想定しているものがございますので、それについては、また期が進んだところで、計上ということはあるかと思えます。

酒井 [Q]：もう一つがサンバイオとの契約、アクーゴです。これは、本契約は、アクーゴの出荷価格、または薬価が決まってくることが、一つの条件になるという理解でよろしいでしょうか。

製造コストは当然、御社がつくるわけですから、それなりに把握されていると思えますけれども、いくらで出荷できるかは、やっぱり薬価との関係、薬価がどう付くかもよく分からない製品ですけれども、その辺が一つの流動的な条件になるという理解をしているんですけれども、いかがでしょうか。

伊藤 [A]：この本契約がどういう条件でということについては今、まだお話しできる段階ではないと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

今、分かっておりますのは、まだ試製造の段階ですので、まずわれわれが、この製品をちゃんとつくれるのかどうか、一番のポイントでございまして。それが確かめられたときに、初めて契約の中身の、条件のお話し合いになると思います。

まずはわれわれのほうで、試製造をしっかりとやるのが、まず今、やらなければいけないことだと思います。

酒井 [Q]：今、パイロットで生産されているんですね、試験生産みたいなかたちで。

伊藤 [A]：そうです。それが試製造の中身ですので今、そういったかたちでの生産をしているということでございます。

司会 [M]：山木田様、お願いいたします。

山木田 [Q]：ジェフリーズ証券の山木田でございます。

まず1問目、JR-141のFDAとの議論について。

JR-141が議題だったことは承知しているんですけども、これはJR-171にも応用できそうな話があったのでしょうか。それを受けてJR-141の交渉状況は、FDAとの議論を前提に進んでいきそうということでしたけれども、JR-171の交渉状況のほうに変化はありましたでしょうか。

ベジェ [A]*：FDAとの会合では、これはJR-141のデータについて特化した話し合いでした。

バイオマーカーの考え方や適用方法に関する非常に有益な情報が多くありました。もちろんバイオマーカーを使用することに関しましては、全てのポートフォリオに適用していきたいと思っておりますけれども、今現在、全ての情報をJR-141で受け取ったやり方、そしてデータを、JR-171に全部、適用できるというわけにはいきません。

したがって、どういうふうにバイオマーカーを考えるのか、どういうふうに申請に適用するのかということについてはプラットフォームの全体で、考えていくことはできるかと思います。

山木田 [Q]：交渉状況については、影響はありますでしょうか。

伊藤 [A]：JR-171の交渉状況について今、何か従前申し上げていることから付け加えまして、ご報告するようなことはないのが、現状でございます。

山木田 [Q]：2点目、アレクシオンとアキュメンのディールですけども、業績予想を立てる時点で分かっていて、FDAとの会議が終わってポンポンと出てきたのは、それを待っていたということになるんですか。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

あと、こういったアーリーステージの提携パイプライン、まだ進んでいるものはあるのか、それともいったん出切ったのか。この辺り、コメントをいただけることがあればお願いします。

伊藤 [A]：まず7月になって、二つ続けてリリースをしたわけですが、これら二つとFDAとのミーティングに、関係があるかということについては、少なくとも私が把握している限りでは、それは特段、関係はないと思います。

おっしゃるとおり、予算に計上していたということでございますので、これは、話し合いは予算を立てる時点で進行しておりましたし、われわれとしては、これは成立する確度が高いだろうと考えていたということでございます。

あと、アーリーステージのものの導出についてでございますが、これは、これで出切ったということではございません。今も話し合いを続けている会社さんは、いくつかございます。実際にこれは、公表はしておりませんが、フィージビリティスタディというかたちで、われわれのものを使ってやっていただいているところがございまして、あとこの期中に続けて、そういったもののリリースができればいいなとは考えております。

司会 [M]：前田様、お願いいたします。

前田 [Q]：野村證券の前田です。1点だけ。

アキュメン社との提携で、既にフェーズ2試験まで進んでいるパイプラインについて、このJ-Brain Cargoを適用するという話があったかと思うんですけども、これは彼らがオプション契約を行使するタイミングとしては、こういったところが考えられるのか。

あと、例えばこのフェーズ2試験で、どんなデータが出てきたときに、このオプション契約を行使する可能性があるのか。この辺りについて、コメント可能なところでいただけますでしょうか。

伊藤 [A]：今のご質問は、アキュメン社との契約に関して、こういった条件でオプションが行使されるのか、ということだと思いますけれども、契約の中身につきましては現状、お話しできることはございませんので、回答は控えさせていただきたいと思います。

司会 [M]：山口様、お願いいたします。

山口 [Q]：シティグループ証券の山口です。一つだけお伺いします。

繰り返しになります、先ほどアン・ベシェさんにおっしゃっていただいた、FDAのミーティングによる、何と申しますか効果、私が勘違いしたのかもしれないですけども。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

もともとの、このFDAのミーティングがないときの、御社のJR-141の、アメリカの申請のタイミングと、今回このミーティングを持ったことによる潜在的な加速というんですか、早期申請は、どのくらいあるでしょうか、ないでしょうか。

先ほどの話を聞いていると、申請時期は変わらないとも聞こえたんですけども、その辺をもう1回、同じことを聞いて申し訳ないですけども、教えてください。

ベシエ [A]*：おっしゃっているとおり、継続的に、予定どおりにやっていきます。バイオマーカのデータで、これを申請しながら、やはり加速化したパスウェイでやっていくということです。

山口 [Q]：バイオマーカのデータで加速化して申請するって言うておられるから、先ほどのどなたかの質問にお答えされた、アメリカのフェーズ3のデータが出てから申請するという、もともとのプランとは、変わってくるということですよ。

ベシエ [A]*：プランは変更がないんです、実は。FDAと、現行のプランを前提に、話をしました。

今現在、変更はありません。もちろん今後、フォローアップしていきますけれども、タイムラインに関しましては、もともとのコミュニケーションどおり、従来どおりの内容のプランでいきます。

山口 [Q]：ということは、FDAと会議をしてもしなくても、申請の時期は変わらないということですね。

ベシエ [A]*：おっしゃるとおりです。

司会 [M]：橋口様、お願いいたします。

橋口 [Q]：大和証券、橋口です。

アレクシオンとの契約については三つ目ということですので、一つ目、二つ目の契約に基づく共同研究においてある程度、先方が満足しているのかなというのが伺えると思います。

この従来の契約についての進捗状況は、御社からこういう成果が上がっていますよというものは、開示いただくのはしばらく難しい状況が続くのでしょうか。開示についての契約、先方が開示権を持っていて、御社としてはあまり出せないようなかたちになっているのか。出せるとすれば、どの段階まで開発が進めば、出せるようになってくるのか。

今回、既存契約で1億円ほどマイルストーンが入りましたよと、ご紹介いただいている。この具体的な内容をわれわれが知れそうなタイミングは、いつ頃なのかを教えてくださいたいと思います。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptasia.com

伊藤 [A]：今すぐにどういうタイミングかということをお答えするものは持ち合わせていないですけれども、もう一度、そこのところはよく精査してみたいと思います。

それで、できるだけ開示できるものについては、過去にもマイルストーンを達成してということを発表したこともありましたが、。今後についてももう一度、今一度精査した上で、開示できるものにつきましては、進捗をお示ししたいのはわれわれも当然ですので、そういったものにつきましては、できるタイミングで開示をしていきたいと考えております。

今、はっきりしたことを申し上げられなくて、大変申し訳ないですけれども、今後そのように対応していきたいと思しますので、よろしく願いいたします。

橋口 [Q]：もう 1 点お願いしたいのが、7 ページで紹介いただいた設備投資の件です。

補助金を使えるということですが、とはいえ、御社の持ち出しももちろんあるかと思えます。

今、検討されている設備投資の内容からして大体、年間どれぐらい固定費が増えそうなかたちで考えていらっしゃるのか。またそのタイミングについて、もし目処が立ってきているようでしたら、ご紹介いただけないでしょうか。

伊藤 [A]：今、この設備投資の規模がどのくらいかは申し上げることはできませんが、この補助金の総額が 383 億円で、13 社が採択されております。ですから、単純平均で 1 社当たりということ、30 億円弱ということですが、ボールパークとしては、そんなに離れていない金額になるかと思えます。

今後いつまでかというと、今のところ具体的に申し上げられるような状態ではないということで、ご理解いただければと思います。

司会 [M]：村岡様、お願いいたします。

村岡 [Q]：モルガン・スタンレー、村岡です。

先ほどの山口さんの質問をもう一度、私も繰り返すようなことになっちゃうんですけれども、混乱が起きないように確認させてください。

つまり JR-141 は、今回のミーティングを踏まえて、10 ページ目の右上に書いているとおり、27 年度の米国承認に変更がない、そういう意味でいいのでしょうか。つまり 26 年にフェーズ 3 結果を入手して、それから申請して、27 年 US 承認という考え方が変わっていない、という意味でよろしいでしょうか。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ベシエ [A]*：おっしゃるとおりです。もちろん常に申請をできるだけ早期に行いたいと考えておりますけれども、現状のターゲットはおっしゃるとおりです。このとおりのタイムラインでまいります。

村岡 [Q]：あと、契約金というか、セカンドクォーター以降の業績に関する質問です。

セカンドクォーターは予定どおり達成すると、いっぱい利益が出ると思うのですが、その先です。サードクォーター、フォースクォーター、計画どおり契約金の追加がなければ、また四半期ベース赤字、赤字が続くことになっちゃうのかな、計算上なら。

今の話だと、JR-141 の契約が決まるのは、僕だったら結果を見てからかな、フェーズ3の、と思うのですが、サードクォーター、フォースクォーターは基本的には、僕らは、四半期赤字を覚悟しておいたほうがいいでしょうか。

伊藤 [A]：もともと期首にお示した予算で、営業利益が26億円、契約一時金55億円ですので、そこに30億円のギャップがあることになりますよね。製品からの粗利と費用との間のギャップが30億円、あることになると思うのですが、予算は変わっておりませんので、そのベースが続いているとお考えいただけますと、四半期ベースで見た場合には、そういったことはあり得ることになると思います。

村岡 [Q]：もちろん、何か追加は最大限努力するのは、当たり前のことだと思うんですけども、それはそのとおりですよ。

伊藤 [A]：もちろんでございます。できるだけ売上、利益を上げたいことは当然でございます。当然、いろんな交渉ごとにおきまして、またあるいは、国内の営業での売上のさらなる増加についても、これは日々努力しているところでございますので、できるだけいい結果をお示しできるように頑張っていきたいと思っております。

司会 [M]：山木田様、お願いいたします。

山木田 [Q]：ジェフリーズの山木田です。1問だけお願いします。

JR-141 の FDA との議論、これは御社が事前に想定していたベストケースの結論だったということではないでしょうか。それとも、もっと早く申請できるケースも、御社は事前に想定されていたのでしょうか。

ベシエ [A]*：FDA との話し合いの内容ですけれども、戦略的な理由から守秘義務が生じておりますので、お話しすることはできません。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

しかし、とても建設的な会合を持つことができました。できるだけ早くの申請を、プログラムのデータに基づいて行うこととなります。もちろん第3相のデータが必要となります。そうでなければ申請に進むことができません。ですので現在、これまで発表している計画どおりに進んでいることとなります。

われわれは発表しましたタイムラインに沿って、発表することに向けて、努力をしております。

司会 [M]：川村様、お願いいたします。

川村 [Q]：SBI証券の川村です。

JR-141について、もう一度確認をさせてください。

申請承認の時期というものは、当初から変わらないというところですがけれども、今回の会合を持ったことによって、より申請に必要なデータパッケージ、どういう前臨床のものが必要なのか、どういうバイオマーカーのもので、そこをブリッジングする実臨床のいろんなデータ、どういうものを示せばいいのか、よりそれがクリアになったという理解をしてもよろしいでしょうか。

ベジェ [A]*：FDAとの会合の中で、非常に頑健なガイダンスをいただいて、かつコメントもいただきました。確実に私どもが堅固なデータ、パッケージを出せるようにということで指示をいただきました。

したがってFDAの想定としては臨床データ、これについてはクリアです。

司会 [M]：それではその他、ご質問がないようですので、質疑応答を終了させていただきます。

以上をもちまして、JCRファーマ株式会社、2026年3月期第1四半期決算発表、カンファレンスコールを終了いたします。

皆様、本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

伊藤 [M]：ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す
3. 本トランスクリプトは企業の同時通訳音源を書き起こした内容を含む

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

4. *は企業の同時通訳の書き起こしを示す

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com